

# 『保育内容 5 領域の展開』

## 演習問題の補足説明と回答例

高山静子 作成 (2022年7月)

『保育内容 5 領域の展開』をご活用いただきありがとうございます。  
本書を授業や園内研修で活用する際の各演習の補足説明と回答例をまとめました。

### 本資料の目次

#### 第 1 部 理論編

- ▶ 演習 1 保育内容の具体的な展開例 ..... 2 (書籍 p.19)
- ▶ 演習 2 文化の選択～絵本を題材に考える ..... 3 (書籍 p.28)
- ▶ 演習 3 保育内容を展開するプロセスの質を豊かにする保育者の援助・環境構成 ..... 4 (書籍 p.35)
- ▶ 演習 4 保育内容の総合的な展開をチームで創造的に考える ..... 7 (書籍 p.36)
- ▶ 演習 5 子どもの思考を促す保育者や環境と思考をじゃまする保育者や環境 ..... 9 (書籍 p.37)
- ▶ 演習 6 園での不適切な教育を考える ..... 10 (書籍 p.38)

#### 第 2 部 実践編

- ▶ 演習 7 幼児期の終わりまでに習得してほしい生活技能とは ..... 11 (書籍 p.65)
- ▶ 演習 8 生活習慣の指導を共有する ..... 12 (書籍 p.77)
- ▶ 演習 9 自分の行動を状況に合わせてコントロールする ..... 13 (書籍 p.87)
- ▶ 演習 10 暴力、いじめ、差別、排除の芽を育てる乳幼児の教育を考える ..... 15 (書籍 p.102)
- ▶ 演習 11 子どもと一緒に「よい行動・悪い行動」について考える ..... 17 (書籍 p.113)
- ▶ 演習 12 自然科学ほか子どもと保育者が環境に気づく、出会うきっかけになる絵本等 ..... 18 (書籍 p.119)
- ▶ 演習 13 子どもに経験してほしい自然体験は何か ..... 19 (書籍 p.122)
- ▶ 演習 14 保育内容の展開「相手の話を聞き、わかるように話す」 ..... 20 (書籍 p.158)

## ▶ 回答例

課題 A 日本語が理解できない子どもがいて、その子どもが登園を嫌がっている。  
 ○くん、5歳と名前と年齢を設定。

	具体的な活動や環境、関わりのアイディア
主体的な遊びとして展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目で見てルールが分かりやすいテーブルゲームを置く（ドイツ等から輸入されたテーブルゲームは、元々言語の多様性を前提してつくられているため、どのテーブルゲームでも言語の違いが問題にならないことが多い）</li> <li>・他の子どももルールを知らない保育者が主導する鬼ごっこをする</li> <li>・言葉の理解が不要な遊びを提案する</li> <li>・泥んこ、水遊び、じゃれつき遊びなどはしゃぎまわる遊びをする</li> <li>・○くんが輝く遊びを行う</li> <li>・○くんを排除する中心者の□くんが輝く遊びを行う</li> </ul>
生活として展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○くんトイレの使い方やロッカーの使い方などを、具体的かついいねいに改めて伝える</li> <li>・分かりにくい生活のルールをできるだけなくす</li> </ul>
その他の活動として展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者による○くんの母語での手遊び（Google 翻訳等を利用）</li> <li>・保育者が主導して交代する二人組の遊びを繰り返し行い、様々な友だちと関わるきっかけをつくる</li> <li>・保育者が主導し、輪になってのわらべうたなど、他の子どもも知らない遊びをする</li> <li>・保育者が主導し、○くんの国や母語の紹介をする</li> <li>・各自が好きなものを自宅からもってきて紹介する</li> <li>・好きなものコーナー、好きなもの写真の掲示を行う</li> <li>・人を助ける、いじめる昔話絵本など価値を考える絵本を選ぶ</li> <li>・「大好き」「大切」等の言葉が含まれる絵本を選ぶ</li> <li>・かっこいい行動（困っている人を助けるなど）、かっこ悪い行動（われ先にと人を押しのけて行動する、人ができないことをからかうなど）クラス全体での友だちとの関わり方を話し合う。</li> </ul>
園庭・保育室等の環境として展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・○くんになじみ深い人形や玩具を置く</li> <li>・○くんの母語の書かれた絵本を置く</li> <li>・○くんの母語での掲示（Google 翻訳等を利用）</li> </ul>
保育士の具体的な関わりとして展開する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体に対して、あたたかく</li> <li>・「大丈夫？」「困ってない？」「何か手伝えることはない？」のように相手に配慮をする言葉を保育者が率先して使う</li> <li>・遊びの場で○くんと個別の関わりを増やす</li> <li>・○くんを排除する子どもとの個別の関わりを増やす</li> <li>・園長、主任、事務等他の職員に協力を依頼し個別の関わりを増やす</li> <li>・園長、主任、事務等他の職員に協力を依頼し保護者との関わりを増やす</li> </ul>

### ▶ 演習方法の解説

この演習は、第3章1～7の選択の根拠を読んでいることが前提です。本文を読んでいない場合にはグループごとに交代で本文を読み、選択の根拠について共有しておきます。文章を読むだけでは理解に至っていない場合がありますので、二人組で「専門職としての文化選択の根拠は7つあります。一つ目は・・・」と口頭で説明する活動を行ってから演習に取り組むと効果的です。

演習は、クラス別に「誰が担任になっても、どの子どもにも必ず読みたい絵本」と「その他おすすめの本」を選ぶ演習となっています。

絵本を、①心の栄養がたっぷりの必ず読みたい絵本、(p 23の心身の栄養を参考にできます) ②子どもがとても喜ぶが、園で読む必要性が低い人工着色料たっぷりのお菓子のよう絵本(置いてあることで保護者の信頼を失う絵本) ③その中間の3種類に分けてみましょう。本文1～7の根拠で考えます。正解はありませんので人によって意見が違うことが当然です。意見が異なるときに「どうしてそう考えたのか」相手の経験や考えをよく聞くプロセスに価値があります。

学生の場合には、図書館等でそれらの代表を数冊ずつ選んで持参し、その根拠を、本文1～7の根拠とともにグループで紹介しあう活動ができます。また年齢クラス別の絵本リストの作成を課題として行うこともできます。

## 演習 3 保育内容を展開するプロセスの質を豊かにする保育者の援助・環境構成

書籍 p.35

### ▶ 演習方法の解説

- ①プロセスの貧しい“残念な活動”を一つ想定します。
- ②残念な活動の具体例を説明します。(あるいは指導してみせます)そして、これをもっとプロセスが豊かな活動にするにはどんな方法があるだろうと問いかけます。
- ③プロセスを豊かにするためのヒントとして表の左枠に書かれたヒントを読むように伝え、ペアまたはグループで話し合います。
- ④マイクを回す等して出た意見を各グループから一つずつ出し、ファシリテーターまたは教員はそれをホワイトボード等を書いていきます。発表する際は他のグループから出ていない意見を出すように指示をします。
- ⑤時間があれば別の課題を提示し、プロセスの貧しい指導と、プロセスが豊かで子どもの経験が豊かになる指導方法の両方をグループで検討し発表します。

\* 演習方法としては、回答例(3)のように“残念な活動”を視点を問わずに“プロセスが豊かな活動”を自由に考える方法もあります。

### ▶ 回答例(1) 5歳児のリレー

#### プロセスが貧しい残念なリレーの例

保育者が朝突然「今日はリレーの練習をします」と言い、保育者がグループ分けをして走らせる。順番が分からない、バトンを落とすなどその都度「こうするの」と指示をする。

活動を豊かにする視点	より豊かな体験ができるための保育者の具体的な援助・環境構成
<p>子どもをよく把握する</p> <p>子どもの声をよく聞き取りつなげる 子どもと一緒に考える 子どもの表現を促す 子どもの話し合い(聞き合い)を促す</p> <p>メタ認知を促す*</p> <p>リラックスや深い呼吸を促す よく見て聞いて感じることを促す 気づきを促す</p> <p>遊びのなかでできるよう仕掛けや仕組みをつくる 物理的環境を準備する</p>	<p>日常の姿勢と動き、注意力、認識などに合わせた内容を考える 自分が走っている姿、練習などの絵を描き、子どもの体の捉え方や走ることに對する感情を知る</p> <p>運動会で何をするかを子どもたちで話し合う 一人の子どもの気づきを、帰りの会などで伝える リレーのコースを話し合って決める、地図を描く チームごとにリレーの走る順番を話し合って決める 走り終わったら、チームごとに作戦会議をする チーム名を考える、チームのシンボルなどをつくる 走るコツを家族に聞いてくることを促す リレーの線を引く粉の性質や扱いについて説明をする リレー研究、速く走る研究をする 小学生のリレーなどを見て話し合う</p> <p>リレーの線やゴールの線を年長児が引けるようにする</p> <p>色の帽子・たすき・バトン、ゴールテープ(紙)などをかごなどに入れ、いつも使えるように置いておく</p> <p><small>*メタ認知とは、自分を客観的に見る能力を指す。見通しをもち主体的な学びを促す自己調整学習につながっている。</small></p>

絵本等を活用する	話し合いのときに使える、数字のカードや、顔写真や名前のついたカードなどを常時保育室に置いておく。最初のチーム分けのときに保育者が使用する
ファンタジーの力を借りる 人に見せる場をつくる 家庭の参加を促す 明日につなげる やりたくなる状況をつくる	何かになりきって走る 「はしる」「かさぶたくん」「ほね」など体を感じる絵本を読む  練習では、注意をしない、促さない、体をつかんで動かさないようにして子どもたちが気づくようにする、不注意だと負けることを経験する、失敗や試行錯誤を経験できるようにする 中学校の運動選手や保護者、地域の人などを見る、話を聞く
技能は細やかにていねいに指導する 技能はスモールステップに分けて指導する	よういどん、バトン渡し、腕ふりなど、技能は取り出してゲームなどを行い、体をていねいに感じたり、工夫をしてみたり、考えたりできるようにする
必要な制限を設ける	まっすぐに並ぶ、前の人についてきれいに歩く（肩をつかまない電車歩き）、広がる（お星さまの形）、順番、終わると後ろに並ぶなどを体験できるゲームなどを通して体の位置に気づく（本吉園子の実践） 変更が苦手な子どもがいる場合には、バトンは当日使用するものを使う。道具やルールを頻繁に変えない
子どもの多様性に合わせて展開する	

## ▶ 回答例（２） ５歳児の発表会

### プロセスが貧しい残念な発表会の例

保育者が発表会の内容を決める。衣装は保護者に協力を得て作る。背景や飾りは保育者が残業して作成する。市販のオペレッタ CD を使いその曲とセリフを覚えさせ、動きを繰り返して練習する。

活動を豊かにする視点	より豊かな体験ができるための 保育者の具体的な援助・環境構成
子どもをよく把握する	日常のごっこ遊びの様子をよく見る それぞれの子どもの強みを発見する
子どもの声をよく聞き取りつなげる	ペープサートで子どもがストーリーをつくる 発表会で何をするか決める 役決めをする
子どもと一緒に考える	衣装や背景を考える
子どもの表現を促す	ごっこ遊びでイメージをひろげる遊びをする
子どもの話し合い（聞き合い）を促す	（劇場の場合）一回だけ劇場でリハーサルをしてビデオをとり後で見る
メタ認知を促す	リトミックやリズム遊びのなかでは自分の身体に意識が向くような言葉
リラックスや深い呼吸を促す	で指導をする。擬音を使って身体表現をする
よく見て聞いて感じることを促す	うたうときには、友達の声をよく聴くように促す
気づきを促す	人前で発言できるように年間を通して行う 子どもの遊びが広がる絵本を読む
遊びのなかでできるよう仕掛けや仕組みをつくる	ほう運動あそびや発散する遊びを多く取り入れて伸びやかな声が出る体づくりをする
物理的環境を準備する	劇ごっこコーナーを常設する
絵本等を活用する	ストーリーからおにごっこの要素を抽出し外でおにごっこをする リトミックやリズム遊びで、身体の表現を促す いろんな動きを出してもらい、そのなかから決めていく

ファンタジーの力を借りる 人に見せる場をつくる	ストーリーに出てくる一つひとつを深める絵本を読む みんなの前で踊ってもらう、子ども同士で見せあいこをする、お互いのいいところを伝え合う 他のクラスに見せる
家庭の参加を促す 明日につなげる やりたくなる状況をつくる	プロセスを保護者に写真で掲示する 前の年の写真やビデオを見る 大人の本物の劇を見る
技能は細やかにていねいに指導する	線上歩行、リズム遊び、わらべうた遊びなどで、まっすぐや輪になることお星さまの形に広がることなど、自分の身体と周囲の関係について自律的に理解できるようになる。
技能はスモールステップに分けて指導する	音をよく聞く活動、「ことばあそびうた」など、自分の声を意識する活動、録画をしてみる活動などを行う。
必要な制限を設ける	子ども同士の厳しすぎる批判には、言葉の言い換えをする 監督、ファッションコーディネイター、プロデューサー、ディレクターなど役割づけ
子どもの多様性に合わせて展開する	〇〇名人、〇〇博士のきっかけづくり

### ▶回答例（3） 2歳児クラスで絵を描く

#### 「発達を豊かにする視点」を使わずに自由に意見を出し合う場合

#### プロセスが貧しい残念なお絵描きの例

子どもは保育者が指示をするまで机に座って黙って待つ。保育者が紙とクレヨンを配る。保育者が指示をする通りに描く。書き終わったらそのまま静かに座って待たせる。保育者が紙を集めに行き、子どもの名前を書く。

活動を豊かにする視点	より豊かな体験ができるための 保育者の具体的な援助・環境構成
<p>プロセスの質を高め、子どもがより豊かな経験ができるお絵かき</p> <p>* 「活動を豊かにする視点」を使わずに 思い付くことを自由に書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙は2歳児用に、画用紙よりも大き目の紙を準備する。</li> <li>・一人で何枚でも描けるように紙を準備する</li> <li>・立って描くことができるように、椅子のない机やカンバスを準備する</li> <li>・太マジック、柔らかく持ちやすい2歳児用のクレヨンなどスムーズに描ける道具を用意し選べるようにする</li> <li>・マジックやクレヨンの色は3色程度とする</li> <li>・コーナー化し2人から数人ずつ描きたい子どもが描けるようにする</li> <li>・描いているときには、静かに見守る</li> <li>・子どものおしゃべりや、子ども同士のおしゃべりを禁止しない</li> <li>・「〇〇を描いてごらん」と指示をしない</li> <li>・「じょうず〜っ」「〇〇ちゃんすご〜いっ」など大きな声で反応しない</li> <li>・描いた内容を子どもに聞き、名前、内容、日付を保育者が文字で描く</li> <li>・クレヨンの絵本などを読む</li> <li>・保育者に「描いて」と子どもが求めてきたときには、正確な絵やキャラクターなどは描かず、丸でお話をつくって描く</li> <li>・3歳以上児の子どもが描く様子などを見ることができるようにする</li> <li>・園内は、自然物や絵画など美的な環境と常に出会えるようにする</li> </ul>

## ▶ 演習 4 保育内容の総合的な展開を チームで創造的に考える

書籍 p.36

### ▶ 演習方法の解説

ここでは、数量の活動の例を解説します。

本では、園内のチームで行うために、模造紙を使用してブレインストーミングでアイデアを「見える化」する方法を紹介しています。学生の場合には、チームで模造紙や A3 の紙、ホワイトボードに書き込むことを伝えます（オンラインで共有できるデジタルホワイトボードが便利）。

机を動かすことができない講義室の場合には、A 4 に印刷した表を個別に配布し、グループで話し合い、出た意見をそれぞれが手元の A4 用紙に書いていきます。

- ①グループで A 3 の紙に、まんやかに「数量の活動」と書くように指示をします。できるだけ多くの活動を書くように指示をします。
- ②5 分ほど経ち、グループの案が尽きていることを確認したら、その後数量の参考資料ページを見て紙いっぱいまで増やすように指示します。
- ③各グループの書いた内容をホワイトボードや壁に貼り、「保育内容を展開するとはどのようなことか」をまとめます。または各自にそのテーマで短文を書いて提出を指示します。以下の回答例を参考に、まとめを行います。

幼児期の数量感覚の種類の詳細については「改訂保育者の関わりの理論と実践」p 70 ~ 76「幼児期の終わりまでに育てたい話し言葉」の数量感覚に関する言葉と、概念や認識をもち思考するための言葉をご参照ください。

### ▶ 回答例

数量感覚の種類	活動、環境構成、保育者の関わり等
量（高い、深い、太い、厚い等）	砂場の砂、大中小のバケツ、大小のスcoop、大型遊具での遊び、猛獣狩り、手つなぎ鬼、しっぽ取り、リレー、オオカミさん今何時、だるまさんがころんだ、リトミック・リズム体操、千の鎖、園庭の実の収穫で数を数える・大きさで分ける、保育者が量に関する言葉を使う
位置（上・すみ・まわり・裏等）	兄弟雀、なべなべ、折り紙、ハサミの活動各種、豆や水の空け移し、縫い刺し、編み物、紐通し、空き箱や段ボールを使った工作、保育者はここ、そこ以外の位置に関する言葉を使って説明をする
形状（荒い・細かい・四角・輪等）	多種類の砂・泥場、じょうご、ふるい、ケーキ型、廃材、空き箱や段ボールを使った工作
程度（すこし・あまり・いつも・ときどき等）	手洗い、数を確認しながらの片づけ、休み（出席）の人数 食事・食器の準備 椅子の数、お手伝い活動 食事の際のデザート配り、食事の見本（下膳） 身体測定、虫取り

<p>数・数え方（1・一個・二人等）</p>	<p>玉入れ、椅子取りゲーム、花いちもんめ、ボーリング遊び、さいころ、数字板、数字スタンプ、カルタ、なわとび、オセロ、二人組、三人組、グループでのゲーム</p>
<p>時間、曜日・月時間（朝、明日・初め、○曜日等）</p>	<p>スケジュールボードで集まりの時間を掲示する アナログ時計を子どもが見やすい位置に置く、モンテッソーリの時計 スクールタイマーを使う、子どももスクールタイマーを使うことを促す カレンダーを掲示する、行事までのカレンダーづくり</p>
<p>数量の操作（順序づける・分ける・折りたたむ等）</p>	<p>すごろく、トランプ、はさみや鉛筆の数を書く ごっこ遊びの玩具は、4、5、10等で意図的に数を置く 玩具は秩序立てて棚に並べ、分ける、順序づける等を日常的に行えるようにする モンテッソーリ感覚・数量・生活の教具 電車に乗ったときに、「あといくつで目的地に着く」と話す 果物をテーブルごとに分けて食べる</p>

## ▶ 演習 5 子どもの思考を促す保育者や環境と 思考をじゃまする保育者や環境

書籍 p.37

### ▶ 演習方法の解説

- ①各グループまたはペアで、枠内に思いつくことを書くように促します。その際、抽象的な言葉ではなく、できるだけ保育者の行動、言葉を書くように説明します。
- ②一定の時間後、各グループ、ペアからの発表を指示する。ファシリテーターまたは教員は出た意見をホワイトボード等を書いていきます。
- ③子どもの思考を促す保育とはどのような保育かを記述し提出するように指示をするか、次週振り返りを行います。教員が解説をすることもできます。

### ▶ 回答例

思考を促す保育者と環境	思考をじゃまする保育者と環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問いを出す人</li> <li>○ 問いを出させる人</li> <li>○ 時間のゆとりをつくる人</li> <li>○ 失敗をさせる人</li> <li>○ 体験ができるようにする人</li> <li>○ 試行錯誤ができるようにする人</li> <li>○ 協働的な活動ができるようにする人</li>   <li>○ 子どもの行動や意見を待つ</li> <li>○ 子どもと一緒に迷ったり悩んだりする</li> <li>○ 子どもが決められることは子どもに考えてもらう (日常のルール、運動会の内容、クラスの名前等)</li> <li>○ 子どもが考え想像したりできる遊びの素材や道具 (参考改訂環境構成の理論と実践)</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「かっこいい〜」「かわいい〜」と、見た目の価値を連呼する</li> <li>○ 「いえ〜い」「すご〜い」とテレビのような高いテンションで子どもを引きつける</li> <li>○ キャラクターエプロンや新奇性の高い服装で子どもたちの遊びのイメージのじゃまをする</li> <li>○ 一々指示をする</li> <li>○ 子どもの話をさえぎり自分の話ばかりする</li> <li>○ 「わかりましたか」「はい」「たのしかったですか」「はい」のような集団の問答をする</li> <li>○ 「今日の天気は何ですか」「はれです」のような考えない問答をさせる</li> <li>○ 次々と課題を出し考えるすきを与えない</li> <li>○ フラッシュカード等高速な反応を求める</li> <li>○ 「誰が一番早いかな」「誰が一番上手かな」と子どもの競争をあおる</li> <li>○ 音のうるさい保育室、音のうるさい玩具</li> <li>○ 童謡など音楽が流れっぱなしの保育室</li> <li>○ テレビがついている保育室</li> </ul>

### ▶ 演習方法の解説

出た意見に対しての批判や非難は一切なしとし、自分と意見が違う場合には「どうしてそう思ったのか」相手の意見をよく聴くように伝えます。また人と違う意見が出せる人は、「私はこういう理由で、こう考えた」と攻撃的にならないように配慮しながら意見を出すように伝えます。

意見を出した後は、「もしも自分たちが市の保育指導官だったら」どうやってこの不適切な教育をなくすか意見交換をします。

以下の回答例には実際に出た意見を書いています。学生の場合なぜ散歩やプールを出す保育者がいるのか疑問を感じると思います。ここは学生の質問を引き出すための項目です。

### ▶ 回答例（実際に現場の保育者から出た意見）

<p>(1) 重大な障害や死亡事故が起きる可能性が高いもの</p> <p>園外の散歩、園内のプール 木陰がない園庭での運動会の練習 乳児期からのフラッシュカードによる早期教育 首を損傷する危険性が高いマッサージや体操</p>
<p>(2) 教育の放棄、ネグレクト</p> <p>意図や目的なくテレビ番組を見せる 子どもを静かにじっとさせるために映像を見せる 玩具の種類が少なく常に取り合いがおきている 狭い空間に大勢の子どもを入れ、動いて遊べない 起きているのにベビーベッドからハイハイができる赤ちゃんを出さない 座る椅子、ベビーラックや歩行器に赤ちゃんを入れ動けないようにしている 椅子に座らせて待たせている時間が長い 運動会の練習等でじっと座らせて待たせ、かつ砂をさわることを禁止する</p>
<p>(3) 子どもの人格を尊重せず、人権を侵害するもの</p> <p>1歳児に一齐にトイレに行かせる 「静かにできているお友達からお名前を呼ぶので外へ行ってもよいです」 「かっこいい」「かわいい」など見た目を評価する 子どもに流行語などを言わせたりして笑う 子どもに何かをさせて、その未熟さを笑う 子どもの人格を侵害する行為の詳細は「改訂保育者の関わり方の理論と実践」p.88～89</p>
<p>(4) 子どもの意欲を奪い、劣等感や無力感を与えるもの</p> <p>発達に合わない早期教育や活動をさせる 「お口はチャック」「手はおひざ」など 指示をされるまで動いてはいけない 体育館や教室のような保育室であり許可がない時間は玩具にさわれない できないことを叱責したり、一人だけ教室に残したりする 子どもの描いた絵や動きなどをからかう</p>

## ▶ 演習 7 幼児期の終わりまでに習得してほしい生活技能とは

書籍 p.65

### ▶ 演習方法の解説

演習を行う際には、生活をしていくために必要な技能に絞って考えることを改めて伝えます。日本の小学校の生活をある程度想定して考えます。危険から身を守る、食事、睡眠、排せつ、着脱、清潔、清掃・片付けの視点から、他には何があるか、二人組あるいはグループで意見をできるだけ多く出すように伝えます。

その後マイクを回す等を行って、それぞれから一つずつ意見を出してもらいます。出た意見をファシリテーターまたは教員がホワイトボードかプレゼンソフト等に入力し、意見の「見える化」を行います。

### ▶ 回答例

#### 幼児期の終わりまでに習得してほしい生活技能

- 転んだ時に手をつくことができる
- 危険な人や場所から逃げるができる
- 眠い、空腹、体調が悪いことが分かる
- 困ったときに人に助けを求めることができる
- 自分の持ち物を自分で持ち管理できる
- 引き出しに自分の持ち物を整理できる
- 号令をかけられない場面で、相手の顔を見て挨拶ができる
- 道路を一人で安全に歩くことができる（家庭の仕事）
- 状況を見てその状況に合わせて行動できる（食器の準備、片付けなど）
- 給食を一定の時間内に食べることができる
- 洋服を一人で着替えらることができる
- 外のトイレ、様式、和式、男子トイレなど多様なトイレで排せつができる（家庭）
- 人に指示されない状況のなかで状況に合わせてトイレに行くことができる
- お腹が痛い、トイレに行きたいなどのときに先生に言うことができる
- 鏡を見て顔が汚れていないかを確認し顔を清潔にできる
- 服や靴が汚れていることが分かり、清潔な服や靴を着ることができる
- 洋服をたたむことができる
- 引き出しの中に畳んで入れる
- 雑巾をしぼり、テーブルを拭くことができる
- 汚れている場所が分かりきれいにすることができる
- ゴミはゴミ箱に入れることができる
- 
-

### ▶ 演習方法の解説

この演習は保育者向けであり体験がない場合には、それぞれの項目を想像することが難しい演習です。学生が行う場合には、実習後に0、1歳児クラスで行っていたことに○をつけるとよいでしょう。

表は最低限度の内容であり、もっとていねいな生活指導をしている園があります。ていねいな生活援助の参考資料としては、『乳児保育』『幼児保育』（吉本和子）などがあります。

## ▶ 演習 9 自分の行動を状況に合わせて コントロールする

書籍 p.87

### ▶ 演習方法の解説

この演習は、現役の保育者でも難しい演習です。人間関係は自然に育つものであり、「何か問題が起きたときに。問題を起こす子どもにだけ、保育者の関わりのみで対応する」ものだと考えることが多く、人間関係は「遊びや生活のなかで育つ」ものであり意図的にその活動を考える保育者はごく少数です。たとえば「自分の行動を状況に合わせてコントロールする」ことが苦手な子どもは「じっとしていない」「落ち着きがない」子どもだと見られ、その子に特別に援助者がつき、指示をしていることも多いものです。この演習は、クラス全員の人間関係を育む活動を意図的に行うことと、環境の影響を受けやすい子どもへの配慮を理解する演習となっています。

人間関係の育ちを支えるには、心身の調整や自己制御を必要とする遊びと、自己制御を発揮させるに役立つ器質的・生理的な要因などの前提知識が必要となります。(後者は現在東京都公立保育園協会雑誌『広報』で「子どもの把握と理解」として連載中)

学生の場合、人間関係と市民性の発達と活動が示された表を参照しながら記入するように指示をします。知らない遊びはインターネットで調べることで、幼児期の遊びの引き出しを増やすことも、この演習の隠れた目標です。

### ▶ 回答例

	展開例
①遊びとして 展開する	<p>あっちむいてホイなど二人組で自己抑制やリズムを合わせるが必要な遊び</p> <p>だるまさんがころんだ、高鬼、助け鬼、くすぐり鬼のような発散と身体の調整、抑制が必要な遊び</p> <p>一人なわとび、トランポリンのようなリズムが必要で運動量の高い遊び</p> <p>はう運動あそび、さくら・さくらんぼリズム、柳沢運動プログラムなど感覚を統合し、身体の安定や協調性を高める運動量が高い活動を楽しく行う</p> <p>体を使ったじゃれつき遊び</p> <p>ルールが目で見えてわかりやすい交代や順番のあるテーブルゲーム</p> <p>ルールが簡単でわかりやすい交代や順番のあるゲーム</p> <p>感情表現や感情の言葉を促すゲーム</p>
②生活として 展開する	<p>自分で考えて生活できるように流れる日課づくりを行う</p> <p>待つ場面、じっとしている場面、指示される場面をできるだけ減らす</p> <p>常に睡眠不足の子どもは、家庭への働きかけを行う</p> <p>遅くまで午睡をさせることを避け、楽しく午睡から目覚めるように工夫する</p> <p>朝ごはんを食べて園に来ることができるよう家庭と一緒に考える</p> <p>保護者の困り感を聞き取り、保護者の味方になる</p>

<p>③環境として 展開する</p>	<p>鉄棒コーナー、運動マットコーナーなど常に体を動かせる環境をつくる</p> <p>事務室など、常に人がいる場所にトランポリンを置く</p> <p>動線が分かりやすく、目で見て分かりやすい環境をつくる</p> <p>ゆっくり考えられる、選んでよいことができる時間の環境をつくる</p> <p>保育者は、室内で動き過ぎずじっとしているように心がける</p> <p>壁面の掲示物は少なめにし、とくに落ち着かない子どもが座る前は飾らない</p> <p>室内の色刺激、形刺激を抑え、自然環境に近い色彩にする</p> <p>音が出る玩具を減らし、保育室の音環境を自然環境に近づける</p>
<p>④保育者による 具体的な指導 援助として展 開する</p>	<p>機会があるごとに体をグーッと抱きしめる</p> <p>「大好きだよ」「大切だよ」「ありがとう」「助かった」といったその子が大切な子であることを言葉で伝える</p> <p>たたく、怒鳴る等を行ったときには、子どもの感情にまきこまれずに冷静に「こわかったんだね」</p> <p>「くやしかったんだね」「とてもいやな気持ちでしたんだね」など感情を表す言葉を伝える</p> <p>何か指示をする際には、近づき目を合わせてはっきりと短い言葉で話す</p>

# 演習 10 暴力、いじめ、差別、排除の芽を育てる 乳幼児の保育を考える

書籍 p.102

## ▶ 回答例

	暴力、いじめ、排除、差別を行動する人が もつ知識、行動、価値観、習慣等	それらを育てる乳幼児期の教育（園）保育 内容、関わり、環境等
自分への不信感、不安	<p>安心感や、安全感を感じられていない 自分の身体を安定したものとして感じられない</p> <p>自我が弱いため、外からの攻撃に弱い 注意をされると、人格を否定されたように感じる</p> <p>自分に劣等感や不安全感を感じているため、他者の見下しやコントロールによって全能感を味わう 自己愛が強い、プライドが高い 人を自分の思い通りに動かしたがる</p> <p>人に攻撃されると自分が悪いと思う心の習慣がある 人が痛みを感じ、苦しむ姿を見て喜ぶ心の習慣</p>	<p>大声で怒鳴る保育者等が園内にいる 「おまちがいさん」「〇〇ちゃんが×」のように子どもにレッテル貼りをし決めつける 子どもを過剰に叱る 排除する、あだなをつける、子どもの行動をからかうなどいじめやいやがらせをする 指示がなくなるまで正座や気をつけをさせるなど、発達に合わない過剰な我慢を強いる 保育者が罰を与えることが頻繁にある 繰り返して人に傷つけられた感情が深く残るような体験を何度もする やり場のない怒り、反論できない立場での被害体験を何度もする</p>
人への不信感、あきらめ	<p>人に指示されコントロールされる状況に慣れている 「ほめられたい」「みとめられたい」の欲求で行動する</p> <p>権威者の指示は絶対であり、逆らうとつらい目に合うと信じている</p> <p>不快で苦しい雰囲気慣れている</p> <p>周囲は自分を脅かすものであり、人は信頼できないと思っている 何をしても変えられないと無力感を感じている 自分の考えを言うてはいけないと思っている 怒りや悲しみなど負の感情は、出してはいけないと思っている 逃げてよいことを知らない、逃げ方を知らない</p>	<p>012 歳児に探索をさせない。子どものさわりたい、動きたい、学びたいといった成長発達の欲求や行動をとめて子どもに高いストレスを与える 345 歳児から自由な活動と探求の時間を奪う。 高圧的で強制的な保育者の姿勢 意味不明なドリル、勉強、正座等を繰り返させられ、逃げようとする罰を受ける 意味不明な行事の練習を繰り返させられ、逃げようとする罰を受ける 意見を言うことや話すことが自分に不利になる体験をする</p> <p>子どもの人数に対して不適切な少ない量のブロックや玩具で、毎日取り合いの経験をさせる</p>
信頼し、つながる体験の 乏しさ	<p>感情や考えを表現する言葉が少ない 対話ができない</p> <p>自分や他者、環境を大切にする行動や言葉を知らない 一人ひとりとのつながりを感じていない 審美的な価値（美、善、愛情、真剣、専心など）を知らない 探求し熱中する面白さや体験を知らない</p>	<p>応答的な会話が少くない 自分の感情や意見を表明することや、聞いてもらう機会が少ない 感謝する、思いやる、励ますなどの言葉を保育者が使わない</p> <p>テレビや商業文化が園の文化の中心である</p> <p>じっくりと友達と探求し会話する活動が少ない</p>

<p><b>考えない習慣</b></p>	<p>権威（強者）に従うことが習慣となっている</p> <p>有名な人、メディアを妄信し、情報を鵜呑みにする考えることをめんどろがる</p> <p>みんなで盛り上がり「ノリがいい」ことを良いと考える</p> <p>仲間内の秩序を保持しようとする</p> <p>自分の気持ちや考えがよくわからず、言葉で上手く表現できない</p> <p>自分がなく周囲に振り回される</p>	<p>日常生活を、笛、号令、ピアノなどの合図でまわし子どもに考えさせない</p> <p>テレビや商業文化が園の文化の中心である</p> <p>「〇〇してもいいですか」「はいいいですよ」「ありがとうございます！」のような集団での唱えが多く、保育者と子どもの対話が少ない</p> <p>保育者の言葉が一方的で過剰であり、先回りの指示や口出しが多い</p> <p>休息、ゆとりのない時間（いま、ここ、わたしの安全を守ることで精いっぱい生活</p> <p>日常や行事の指導で厳しい指導が日常化し、子どもは先生の顔を伺うようになっている</p>
<p><b>暴力の肯定、いじめや排除</b></p>	<p>悪い人、汚い人、遅い人、できない人、弱い人は、罰してよいと思っている</p> <p>自分の嫌いなもの、いやなものは、いじめてよいと思っている</p> <p>人の弱点や強みをからかうことはよいと思っている</p> <p>からかい、いじり、差別、排除、脅し、暴言、暴力、破壊、誹謗中傷などの言い方、やり方を知っている</p>	<p>子どもに「誰が一番早いかな」「誰が一番上手かな」「誰が一番かっこいいかな」など競争をあおって行動させる</p> <p>行動が遅い子どもや他の子どもと違う行動をする子どもを叱責したり、残したり、外へ出したりする</p> <p>他の保育者や保護者や子どもの悪口を、子どもの前で言う</p> <p>行動が遅い、給食を全部食べない、などを悪い行動として罰を与える</p>
<p><b>排除に対する姿勢、違いを対立や</b></p>	<p>人にうけることや友達にほめられることに価値をおく</p> <p>他者への志向性、他者への追従の意識が強い</p> <p>盛り上がるのが良い、水をさすのは悪いと思っている</p> <p>「仲良く」が良い、「けんか」は悪いと思っている</p> <p>個と個の関係が薄く、意見を交わしたり感情を伝えたりしない</p> <p>人と違うことをすることに不安を感じる</p>	<p>保育者が過剰にほめる</p> <p>保育者がほめて子どもを動かすことが日常化している</p> <p>子どもに“ウケる”絵本や活動が中心である</p> <p>子ども同士のけんかが起きないようにする</p> <p>「けんかをしません」「今日もみんな仲良くします」などの暗唱をする</p> <p>けんかの後、「ごめんね!」「いいよ!」を子どもに言わせて解決する</p> <p>全員が同じであることに価値を置く。全員が同じ服、クレヨン等を家庭に強制する</p>
<p><b>想像性の欠如、他者への</b></p>	<p>メタ認知が低く、相手の立場や気持ちの想像が難しい</p> <p>その場その場で刹那的<sup>せつなてき</sup>に行動し見通しをもてない</p> <p>他者は、自分とは違う考えや感情をもっていることに気づいていない</p> <p>自分が思ったことは、まわりに受け入れられると思う</p> <p>万能感が高く、問題をまわりのせいにする</p> <p>他者が、自分の思い通りにならないことを許せない</p>	<p>012歳で知識を丸暗記する特殊な早期教育を行う</p> <p>想像遊びの環境や機会がない</p> <p>次々と高速で指示を出し、それに瞬間的に反応する活動を中心とする</p> <p>保育者が「感情」の言葉を使わない</p> <p>保育者に権威がなく、すべて子どものいいなりである</p> <p>園の生活にルールや秩序感がなく、放任である</p>
<p><b>その他、生活習慣</b></p>	<p>生活習慣が自立できていない</p> <p>食や睡眠の自己管理ができていない</p> <p>情緒が不安定でむかついていることが多い</p>	<p>感ていねいな生活習慣の指導が行われていない</p> <p>食や睡眠等生活について子どもに教育を行っていない</p>

## ▶ 演習 11 子どもと一緒に

書籍 p.113

### 「よい行動・悪い行動」について考える

#### ▶ 演習方法の解説

ある園で子どもに聴いた結果を以下に示します。この演習を行った園では、(子どもはこんなことを考えていたのか)と保育者の発見が大きかったそうです。この演習は子どもの意見を聴きとりホワイトボードに書くという新しい保育者の行動を獲得するきっかけになります。

#### ▶ 回答例

年長児が実際に考えた(書き取りは保育者) A 保育園の例

良いこと(したほうが良いこと) かっこいい人ってどんな人	悪いこと(しないほうが良いこと) かっこ悪い人ってどんな人
履けない人に靴を履かせてあげる 転んだ人、落ちた人を助ける、大丈夫か聞く 先生に知らせる けんかをしたら止める ロフトから降りられない人に教えてあげる 赤ちゃんが捨てた物を拾ってあげる 人の出した物でも片付ける おもちゃを貸してと言われたら貸してあげる 茶碗を自分で片付ける 花壇の花を摘んでいる子がいたら、とってもいい花を教えてあげる 赤ちゃんがトゲトゲに近付いたら止める 米粒を残さず食べる 毒のある植物を食べない 毒のある植物・虫・カエルを小さい子に教えてあげる 自分が食べこぼしたゴミは雑巾でとる 手伝ってと小さい子に言われたら遠慮せずにやる 分からないことは図鑑で調べる 虫を小さい子に捕まえてあげる 元気に時間に合ったあいさつをする	雑巾を投げる 木の枝を折る 細い枝にぶら下がる 茶碗を持って走る おもちゃを乱暴に扱う カブラを投げる 人に「バカ」とか、悪い言葉で言われた人が嫌な気持ちになることを言う うさぎに向かって大きな声を出す キヤーと言う うさぎの網を叩く 人が痛いところを叩く 人をいじめる、叩く、げんこつする 石や木の棒を投げる、人にぶつける 高い所に手伝ってもらって登る 高い所、グラグラする所で遊んでいる人を押す 悪い大人について行く 園外ですれちがう人に変なことを言う 木の実を他の人のことを考えずいっぱい食べる 網戸やドアで遊ぶ 遊んでいる人の邪魔をする 皆で話を聞いている時におしゃべりする 皆がお昼寝している時うるさくする 人の話を聞いていないふりをする 虫捕り網を剣にする 人の服を引っ張る ジャブ池で水遊びしていない服を着ている人に水をかける

園の年長児クラスでは、模造紙やホワイトボードが話し合いに使われます。高山静子「改訂保育者の関わりの理論と実践」郁洋舎 2021 の 81 頁のイラストなどを学生に見せることでイメージが浮かびやすくなるでしょう。

## ▶ 演習 12 自然科学ほか子どもと保育者が環境に 気づく、出会うきっかけになる絵本等

書籍 p.119

### ▶ 演習方法の解説

ファシリテーターまたは教員は、園・学校周辺の自然環境（植栽、気象、地形）や生活環境（港、水族館、サッカースタジアム等）で考えるように指示を出します。表に記載されている絵本で、必ず自分の地域でも読みたいものは○をつけるようにします。

表には、自然環境に加えて、「要領・指針」の環境に示される内容 12 項目の物の性質、施設、国旗等も含めています。数量・図形、文字や記号に関しては、別の章に本を紹介しています。ここでは内田伸子教授の図鑑型の子ども、物語型の子どもの研究の紹介をすることもできます。物語型の学生は「ぐりとぐら」や「はじめてのおつかい」などを好んで選び、図鑑型の子どもは自動車やかがくの本を選びますが、子どもは多様であることに留意するように伝えます。

また読んだことがある絵本を○で囲むだけでも、自然科学に関する絵本の引き出しを増やすきっかけになるでしょう。

## 演習 13 子どもに経験してほしい自然体験は何か

書籍 p.122

### ▶ 演習方法の解説

3、4人のグループに分かれ、自由に意見を出し合います。出た意見はA3の紙等にサインペンで書くか、ホワイトボードに書き込むことを伝えます（オンラインで共有できるデジタルホワイトボードが便利）。出た意見は批判や評価をせずにすべて書きます。出尽くした様子が見られたら本文を参照するように伝えます。

10分ほど経過してグループの内容をお互いに見合います。

最後のまとめでは、自分の考えや経験から考えると子どもたちの経験は自分の経験以下になることや、保育者は専門知識という根拠に基づいて考えることが必要であることを説明します。

### ▶ 回答例

ある園で記入された自然体験の例

	園内でしてほしい自然体験とは
0・1歳	水をさわる、たたく、かきまぜる、すくう、こぼす 土・砂を食べてみて吐き出す 土・砂・芝の上をはう、歩く、さわる、斜面を登る でこぼこ道をはう、歩く 風を感じる、ザワザワと草が動く様子を見る 光をまぶしいと感じる 寒い、暑いと感じる、汗をかく、身震いする
2・3歳	水たまりに入る、水たまりを歩く、走る、バシャバシャ水をはねさせる 水を運ぶ、流す 泥のなかに入る、歩く、ベチャベチャさせる おたまじゃくし、虫、あり、ミミズ、バッタなどをさわってみる 自然のなかで探索してたくさんの発見をする くわの実を取り食べる 大きな子が動物の世話をする姿を見る 動物に餌をやる
4・5・6歳	四季を通して外気にふれる 不快さを感じる、蒸し暑さなど 泥んこ遊び、泥すべり 葉っぱや木の実で遊ぶ 木に登る、降りる、飛び降りる カタツムリ、ミミズ、バッタ、だんご虫探し 虫の幼虫を見つけて育てる、ふ化させる 野菜を育てて料理をして食べる、人に食べさせる

## ▶ 演習 14 保育内容の展開

書籍 p.158

### 「相手の話を聞き、わかるように話す」

#### ▶ 演習方法の解説

保育では、保育者が絵本の読み聞かせをする、保育者がパネルシアターやエプロンシアターをするなど、保育者が話し、子どもは保育者に問いかけられたときだけに単語程度の言葉を話す活動が多く行われています。「静かに話を聞く」ことが重視され話の内容を聞きとる活動はあまり行われていません。また、子ども自身がたっぷりと話すための活動が少なく、教材も置かれていない現状があります。

学生は、演習の表のなかに、発達と活動の表から活動を抜き出しインターネットで調べることで、子ども自身が話す活動の引き出しの中身を増やすことができます。

#### ▶ 回答例

	展開例
①遊びとして展開する	お話コーナー（テーブル人形、手袋人形、お手玉人形、走り人形、安定して立つ木製人形、動物人形、お話組み木、子ども用ペープサートと背景、わらべうた用のシルクスカーフ）で遊ぶ 積み木の空間に人形やフィギア（水族館、動物園、虫、木、駅、標識）を置く 無地の絵本と紙芝居用の色画用紙を置いておき、絵本や紙芝居をつくる 紙芝居の演台を固定しておき紙芝居を子どもが読む クイズ、しりとり、伝言ゲーム、ことば遊び、カルタ、すご六、落ちた落ちた、連想ゲーム、リズム遊び、椅子とりゲーム、フルーツバスケット、いろいろバスケット 自然の音を聞く、音探しゲーム、うた 話をするテーブルゲーム、話し合うことが必要なテーブルゲーム 絵本の想像画を描く
②生活として展開する	自分の好きな席で食事をする 全員集まった朝のシール貼り等意味の薄い活動のために、黙って椅子に座っている時間をできるだけ少なくする。 グループで話し合って園内の好きな場所で食事をする（お弁当箱につめる） 午睡から起きた子どもは別の部屋で遊べるようにする 朝や夕方の居残り保育等ではテレビ番組や紙芝居等を見せないようにする

<p><b>③環境として展開する</b></p>	<p>注目できるようにまわりを片付けてから話す、敷物を敷くなど集中できる場をつくる</p> <p>保育者の背後は、飾りがないシンプルな場にする、保育者は視線をひきつける服を着ない</p> <p>子どもの声が聞こえる静かな雰囲気をつくる、周囲がにぎやかなときには話の聞きやすい場へ移動する、子どもが落ち着かない場合には、場を変える</p> <p>隣の部屋まで聞こえるピアノは保育室からなくす、室内に吸音材の設置、吸音素材を増やすなどして反響を減らす</p> <p>話をするテーブルゲーム、話し合うことが必要なテーブルゲームを置く</p> <p>お話のコーナーづくり</p> <p>子どもがつくるペープサートの環境</p>
<p><b>④保育者の具体的な関わりとして展開する</b></p>	<p>その子のところまで行き小さな声で話す、手遊びなどで体を落ち着かせ集中させてから話す、物を使い、視点を集めながら話す</p> <p>声の強弱に気をつけて話す、簡潔明瞭に話す</p> <p>子どもの良い面を話す、子どもの言葉を補う、子どもの言葉を復唱する</p> <p>問いかける、子どもの話を聞く、ひとりひとりの言葉を拾って伝える、人前で話す機会をつくる (Show and tell など)</p> <p>一人ひとりがたっぷりと話せるように小グループで集会をする</p> <p>話し合いの機会 (行事、困りごと、ルールなど) をつくる</p> <p>けんかを見守る</p> <p>絵を描いたときにはその内容を聞きとり書いておく  (集団に対して保育者が話す技術は、「改訂保育者の関わりの理論と実践」 p 77～81 に掲載)  (子どもの言葉を引き出す具体的な言葉は、「改訂保育者の関わりの理論と実践」 p 66、p 71)</p>